

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 元 年 6 月 2 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02248

研究課題名(和文) 日本近世出版法制研究補完及び文学史との関連追求

研究課題名(英文) The research for the unknown publishing ordinances and their relations with the literature in Edo period

研究代表者

山本 秀樹 (YAMAMOTO, Hideki)

岡山大学・社会文化科学研究科・教授

研究者番号：60252409

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：主に大阪における未知の江戸時代出版法を発見し、他地域に関する未知の出版法の発見にも及んだ。また、金沢と岡山を調査サンプル地域として、おそらくは江戸幕府が出版法を藩に伝達しなかったことを確認した。これらの事実を踏まえた江戸時代の出版法制像は、これまで漠然と抱かれてきた江戸出版法が日本全域を支配していたとする出版法制像とまったく異なったものとなる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

単なる思い込みによって形成された歴史像を持ち続けるわけにはいかない。歴史事実は確かめられなければならない。本研究課題のなし得たことは、日本史という大きな範囲のなかで見れば、小さな一步にすぎないかも知れないが、事実にもとづいた歴史像の礎石のひとつである。出版という事象において観察を行う限りにおいて、江戸幕府は全国を支配する体制を取ってはいなかった。強権的であり、専制的な江戸幕府像は、出版という事象に対する限りにおいては、一旦廃棄されなければならない。

研究成果の概要(英文)：Some ever unknown Osaka publishing ordinances were discovered by this research, and in some cases were convinced the existences of the same ordinance at Edo city. And no delivery of the publishing ordinances to feudal domains(藩) by the Shogunate was confirmed by the documents of Kaga domain and Okayama domain. Therefore the existence of the common publishing laws in Japan in Edo period were ever believed, but there is no publishing law, and is publishing ordinances in each cities.

研究分野：日本近世文学

キーワード：日本近世文学 日本近世法制史 近世出版法 三都本屋仲間 江戸出版法 京都出版法 大阪出版法 大坂出版法

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

私は平成16年度～平成19年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究課題番号16520107「江戸時代の三都(江戸・京都・大阪)出版法制の比較研究」等により江戸・京都・大阪それぞれの都市の出版法令を三段に年代順に並べ、三都市の出版法令を比較できる一覧表を作成した。(その資料は『江戸町触集成』全19巻、『京都町触集成』全13巻別巻2巻、『大阪市史』三・四上・四下である。一覧表は「江戸時代三都本屋・出版物関係町触一覧」として同上科学研究費研究成果報告書(平成20年)に収録。)

その一覧表は明らかに、江戸で発令された出版法令が三都に共通するとしてきた従来の先行研究の想定に反して、江戸時代の出版法のほとんどが三都市のそれぞれで個別に発令されており、三都に共通する出版法は享保・天保の改革期等の機会にきわめて限定的にしか発令されず、その数もきわめて少数であることを示していた。

ついで、私は平成22年2月発行の単著『江戸時代三都出版法大概 文学史・出版史のために』(岡山大学文学部研究叢書29、岡山大学文学部発行)において、三都出版法の異同に関する通史を執筆し、その前提として江戸時代法・江戸時代出版法の理解に関して採用すべき候補となる先行諸説を比較し、批判検討し選択した。

そこで日本近世史研究、日本法制史研究、出版史研究、日本近世文学研究における関係先行文献を比較検討して明らかになったことは、平成年間に刊行された『京都町触集成』の成立によって従来の幕府江戸法が三都に共通することを自明視してきた前提が崩壊したことであり、それぞれの法の適用範囲地域を考慮に入れた日本近世制度史の見直しが行われなければならないことであった。

前記科学研究費補助金研究において作成した一覧表によって出版法制度における三都の異同が明らかになったわけだが、それは時機を得て成し得たことだったわけである。

そして、上記『江戸時代三都出版法大概』によって、従来まったく知られていなかった三都出版法の変遷を通史的に記述し明らかにしたことになったわけだが、以後の課題として手付かずのままに残さざるを得なかった研究課題がある。本研究はその残された課題について追究をすすめたものである。

2. 研究の目的

第一の課題は、大阪出版法の補填作業である。すでに一覧表を作成した江戸・京都・大阪の三つの都市は、江戸時代前期から出版がさかんに行われた江戸時代の出版中心地である。この三都市について考察しておけば、江戸時代の出版について考えたことになると言ってもいいほどの特権的地位を占めた存在であるが、資料として使用した『大阪市史』は、明治時代に大阪法令を収集した結果で、さすがにそれ以後に知られる大阪法令史料が存在する。そして、享保の大火で文書を焼失した大阪では、『大阪市史』で法令本文のないタイトル(頭書)のみの法令も数多く、法令の補填作業が行われなければならない。

第二の課題は、上記背景研究でまったく手付かずとなった三都以外の出版法の解明である。

出版法はそのほとんどが江戸・京都・大阪で異なる。ということはその発令は江戸の町奉行・京都町奉行・大阪町奉行がそれぞれ行っているということになるが、それ以外の地域においてどのような出版法令(あるいは出版禁令)が発令されたかは今のところまったく不明である。

従来は資料の確認ぬきで、江戸で発令された出版法が全国を支配していると想定していたので、問題の存在自体意識されることがなかったわけだが、江戸法のほとんどが京都・大阪で発令されていないとわかった以上、あらためてその他地域でどのような出版法令(あるいは出版禁令)が発令されていたのか、あるいは、発令されていなかったのか、確認を取ってみたいことには出版法に関する史的記述がまったく成立しない状態が生じている。

それは文学成立・出版の前提となる出版制度が江戸町方・京都町奉行支配地・大阪町奉行支配地についてしか、判明していないということであるから、日本全国規模で見た場合、江戸時代文学史・学問史の前提は現在、その地域面積的にはほとんど把握されていない状況にあるとも言えるわけである。

もちろん、江戸時代の出版の中心が幕末にいたるまで江戸・京都・大阪の三都市であったこともまちがいないので、江戸時代の文学・学問の前提たる出版法の把握として、上記三都市の出版法が判明していれば、さしあたっての考察研究は可能なわけだが、その他地域に関する見通しも立てなければならない。

本研究では日本法制史研究の第一人者であった服藤弘司氏の作業にならって、氏が『御触書集成目録解題』(岩波書店、平成十四年)で用いた代表的な大名関係法令史料等を確認して、出版法令の全国的状況を推察したい。

また、前記『江戸時代三都出版法大概』であとに残した第三の課題として、江戸時代出版法制と文学史との相関に関する考察がある。

3. 研究の方法

(1)日本近世都市研究の分野で紹介考察の行われている大阪法令史料および大阪市史編纂所がその存在に言及している大阪法令史料の内容を確認し、新たな大阪出版法を発見し、三都出版法一覧の完成度を高めた。

(2)服藤弘司氏が『御触書集成目録解題』(岩波書店、平成十四年)で使用した代表的な大名法令史料等を確認して各藩および幕府代官支配地における出版法令状況を把握した。

(3)三都出版法制度と文学史の相関に関して考察を試みた。

三都出版法制度の推移変遷と文運東漸（文学出版の中心地が江戸時代中期に関西から江戸に移ったこと）の関係について考察した。

資料紹介の完備している洒落本の刊行と本屋仲間との関係を点検し、本屋仲間史料の存在している江戸と大阪についてその刊行統括の仕方に関する考察を行った。

4．研究成果

(1)現在存在が把握され、紹介の行われている大阪法令史料について出版法の存在を点検し、知られていなかった法令に関して論文報告を行った。それに付随して、存在の知られていなかった全国法の存在についても推察されることがあり、江戸史料の性格等に関しても理解の深まりがあった。具体的に言えば、江戸時代前期江戸町触史料としてほとんど唯一無二の存在である『正宝事録』が精選法令集であって、すべての町触を記録したものでないことが明らかとなった。また、大阪の町触タイトル（頭書）の日付は実際の町触本文の発令日の一日前であることが多いが、その日付が町触を管轄する町年寄に触が知らされた日付であることが明らかとなった。

(2)加賀藩史料と岡山藩史料について幕府から送られた法令を記録する史料の内容を点検して、幕府がこの二つの藩に対して出版法の類を知らせていないであろうことを確認した（少なくとも記録には残っていない）。おそらく幕府は出版法を藩に知らせる意図を持たなかった。それは基本的には出版法が三都の町奉行の都市行政条令であったことを意味しようが、三都に共通する数少ない法令の類も幕府は藩に知らせなかった。出版法は基本的に幕府の領内を対象として考えられていた。いや、それもまた、三都共通法の少ないことを考えればちがうのであって、出版法は原則的に各都市の行政の問題であったと言える。

(3)

いまだ論文発表を行っていないので、ここでの公表を避ける。

いまだ全作品に関しての点検を終えていないため、ここでの仮説の公表を控える。

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 6件)

山本 秀樹、『せん年より御ふれふみ』『大坂岡山御触留』で補われる江戸時代大阪出版法令について 附、岡山大学附属図書館池田家文庫蔵『宝暦三癸酉八月ヨリ大坂岡山御触留』所収大阪触達番号一覧、岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要、査読無、第42号、2016、21-35

<http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/ja/54684>

山本 秀樹、江戸時代大阪本屋仲間行司の固定的性格、岡山大学文学部紀要、査読無、第65号、2016、120-132

<http://escholarship.lib.okayama-u.ac.jp/ja/54791>

山本 秀樹、元禄二年「異説」の搜索 『大坂御仕置御書出之写』によって新たに知られる実態の考察、岡大國文論稿、査読有、第44号、2016、31-42

山本 秀樹、大阪本屋仲間の歴史（四） 元禄二十四人衆（下）、岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要、査読無、第41号、2016、1-10

<http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/ja/54206>

山本 秀樹、江戸時代前期の江戸における町奉行所出版許可制の存在について 荷田在満の『大嘗会便蒙』による奇禍を通じて、岡山大学文学部紀要、査読無、第64号、2015、83-94

<http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/ja/54449>

山本 秀樹、大阪本屋仲間の歴史（三） 元禄二十四人衆（中）附 山本九右衛門の高麗橋二丁目への移転、享保八年頃説の提示、岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要、査読無、第40号、2015、13-25

<http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/ja/53847>

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等 なし。

6．研究組織

(1)研究分担者 なし

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者 なし

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。